

2. 緊急調査結果

(i) 災害概要

本州南岸に停滞した梅雨前線により、7月1日には伊豆諸島で線状降水帯が発生し、日降水量が300ミリを超える大雨となった。7月1日から3日にかけては、東海地方から関東地方南部を中心に断続的に雨が降り、静岡県複数の地点で72時間降水量の観測史上1位の値を更新するなど記録的な大雨となった。

この一連の降雨期間中である7月3日、熱海市伊豆山地区の逢初川では土石流が発生し、死者26名※、行方不明者1名※、住宅全壊53棟※、半壊11棟※という甚大な被害に見舞われた。（※令和3年7月1日からの大雨による被害状況等について、総務省、R3.10.4より引用）

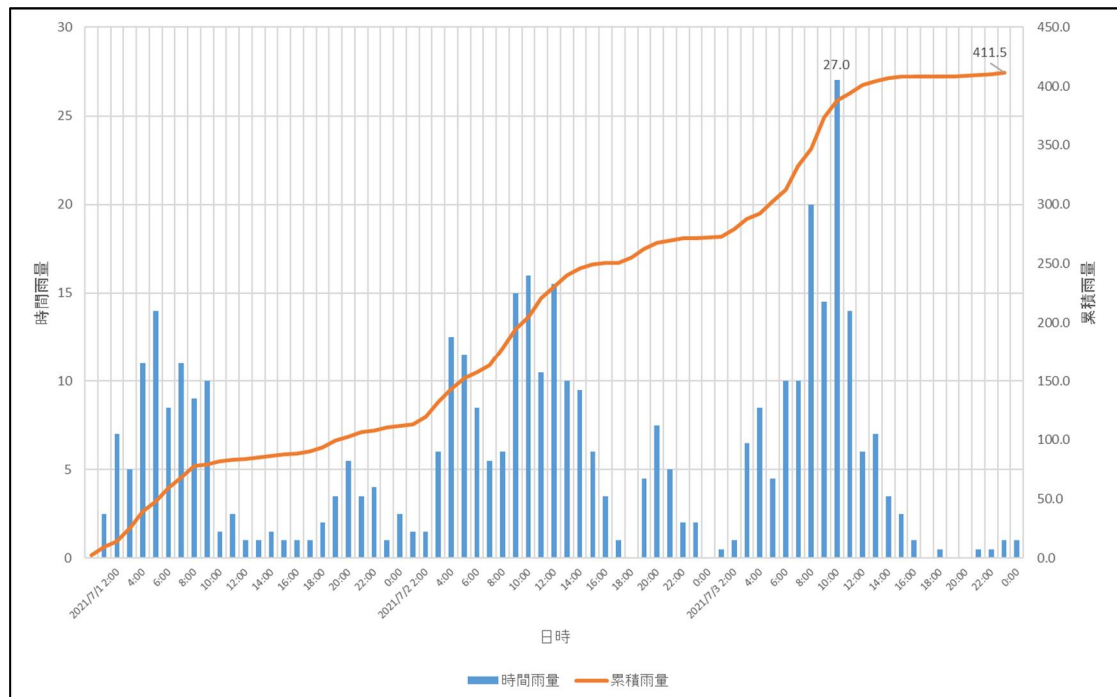


図 2.1 網代観測所における降雨状況（令和3年7月1日～7月3日）

(ii) 法指定状況

土石流発生源を含む逢初川は、以下に指定されている。

○崩壊土砂流出危険地区：箇所番号 205-019、危険度 A（静岡県地理情報システムより）

○土石流危険溪流：危険溪流番号 205-I-52（静岡県地理情報システムより）

(iii) 緊急調査結果

既往の空中写真から、土石流の発生源付近右岸山腹には、林地開発箇所（太陽光発電施設）および伐採跡地が確認された。このため、本災害に対して林野庁では、発生源周辺の拡大崩壊の危険性および、林地開発箇所と崩壊発生との関係を調査することを目的に、7月6日および8月26日に林野庁、森林総研（6日のみ）、静岡県との緊急調査を実施した。調査は、現地踏査による発生源およびその周辺の確認と、ドローンによる状況確認を行った。（7/6 調査結果を P6～P16 に、8/26 調

査結果を P17~P18 に示す)。

(a) 二次災害の危険性について

・土石流の発生地点では、斜面上部の亀裂の発生や不安定な土砂の残存が確認された。引き続き警戒が必要な状況である。

(b) 崩壊発生源周辺の状況

1) 盛土造成と土石流発生との関係

・土石流の発生地点の崩壊土砂には、盛土したものも含まれ、それが土石流となって流出した状況を確認した。全体として大量の土砂が流出することにより甚大な被害が発生した。

2) 太陽光発電施設と崩壊発生との関係

・太陽光発電施設が設置されている斜面から、土石流の発生した斜面の方向に向かって、雨水が集中して流れた痕跡は確認されなかった。



写真 2.1 崩壊源頭部全景